

平成28年度 学校評価評価票（自己評価・学校関係者評価）

平成28年度の重点目標

学習指導と生徒指導をもとに進路指導の充実を図り、社会的実践力を備えた人材を育成する
 ・学習指導：確かな学力の定着と、目標達成に向かって自主的、自発的に学ぶ学習態度の育成
 ・生徒指導：謙虚で礼儀正しい人格と、強健な身体の育成、生命尊重の精神の涵養
 ・進路指導：社会人として生きていくスキルを身につける、キャリア教育の充実

【内部評価】本校教職員による評価については、各々A～Dで示した。
 A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である
 D：不十分である

A:十分
 B:おおむね十分
 C:やや不十分
 D:不十分
 E:判断できず

評価分野	評価項目	内部評価			外部評価委員会	
		達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
経営方針	1 組織の活力を高め、マネジメントサイクルを活用して常に「改善」を指向する体制の確立に努める。	B	B	○報告・連絡・相談の徹底と、校務運営会議等での調整・協議を円滑にし組織的な運営を進める。また、職員間の連携を強め多くの意見を聴取し課題の発見と解決に努める。	B	B
	2 組織的・計画的・実践的な校内研修の充実を図り、教職員の教科指導力の向上に努める。	B	B	○様々な研修活動を充実させ、計画的・組織的な研修を実施し、教員の資質や能力の向上に努める。		
	3 保護者、地域、関係機関との連携、協力を深め、魅力ある学校づくりに努める。	B	B	○生徒の活動の姿を通して学校の取組を伝えると共に保護者や地域からの情報収集の充実を図る。		
	4 諸業務の改善による効率的・合理的な業務システムと、危機管理システムの構築に努める。	B	B	○適材適所の人材を校務分掌に配置し、業務の効率化・合理化を進めるとともに、実効性のある危機管理システムの工夫・改善に努める。		
学習指導	5 諸業務の改善による効率的・合理的な業務システムと、危機管理システムの構築に努める。	B	B	○教育活動の主体は授業であることを意識し、ICTの活用や生徒による授業評価など、指導法の工夫・改善を進める。また、生徒自身によるリフレクションや自己評価を行い、学ぶに向かう自主的な態度を育成する。	B	B
	6 課題や補習等を活用した反復学習や家庭学習により、学習習慣の確立を図る。	C	B	○生徒が主体的に学ぶ授業法や評価法について研修を深めるため、研修会等へ参加を促し、教員の能力や指導力向上を図る。		
	7 興味・関心が高まるわかりやすい授業のための指導法や教材を研究し、生徒の学習意欲を喚起する。	B	B	○学力診断テスト等を活用し、生徒一人一人の状況を的確に把握し、個に応じた実践的な指導を進める。		
	8 T Tや習熟度別指導等を活用した個に応じた教科指導を工夫する。	B	B	○各教科において実践的な学習活動を取り入れ、コミュニケーションスキルや表現力等を育成する。		
生徒指導	9 T Tや習熟度別指導等を活用した個に応じた教科指導を工夫する。	B	B	○家庭との連携を深め、生徒の望ましい生活習慣の育成を学校と一体化して進める。	B	B
	10 全ての生徒に言語活動の充実等、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせ、確かな学力を定着させる。	C	B	○生徒の状況を多面的に把握し、支援を一層充実させることを目指して、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用するなど、生徒の変化を捉える機会を増やす。		
	11 身だしなみ、礼法、言葉遣い等、基本的な生活習慣を身に付けさせ、主体的に考え行動できる生徒の育成に努める。	B	B	○スクールカウンセラーの活用や教育相談の一層の充実を進め、生徒の心情の変化を的確に捉えた丁寧な指導を行う。		
	12 共感的な生徒理解を基盤に、スクールカウンセラーとの連携による教育相談の充実を図る。	B	B	○生徒の主体的な活動を育成するため、部活動や生徒会活動を充実させ、自己形成を図るとともに望ましい人間関係の形成を図る。		
進路指導	13 共感的な生徒理解を基盤に、スクールカウンセラーとの連携による教育相談の充実を図る。	B	B	○各学年に応じたキャリア教育の一層の充実を図り、生徒の進路実現を図る支援を強化する。	B	B
	14 特別支援学校との連携や校内研修の充実による特別支援教育の体制を確立する。	B	B	○各種の検査、テストを通じ生徒の能力・適性の客観的把握を進め、生徒・保護者への進路情報の提供に努め、進路指導体制を強化する。		
	15 部活動や生徒会行事を通して、生徒の自主的な行動や失敗を恐れぬ積極性を促し自立心を育成する。	B	B	○進路シラバスの充実を図り、「総合的な学習の時間（A C T）」を中心としたキャリア教育の充実を図る。		
	16 A C Tを中核とした体系的なキャリア教育を充実し、3年間の進路S T O R Yの展開に努める。	B	B	○外部講師の活用や教育局の進路相談員等の関係機関との連携を推進し、生徒の進路実現を支援する取組を強化する。		
健康安全指導	17 A C Tを中核とした体系的なキャリア教育を充実し、3年間の進路S T O R Yの展開に努める。	B	B	○心身の健康・食事・睡眠などに関する各種情報を保健だより等で提供し、自主的な健康管理ができる生徒を育成する。また、命を守る指導、命を大切にすることを育てる指導を教科科目の授業においても実践し、安全教育の更なる充実を図る。	B	B
	18 情報の収集や提供を積極的に行い、生徒一人一人の能力・適性に応じた進路指導に努める。	B	B	○J R C活動の充実と生徒のボランティア活動を奨励し、他者を思いやる心や感謝の心を育む教育活動を充実させる。		
	19 保護者への分かりやすい進路情報の提供と進路相談の充実を図る。	B	B	○防災教育や生徒の救急救命講習の充実を図り、非常に実践できる能力の育成に努める。		
	20 地域・保護者・関係諸機関との有機的な連携を図り、地域の人材や教育力を活用して進路意識の醸成に努める。	B	B			

評価分野	評価項目		内 部 評 価			外部評価委員会	
			達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
授業改善	21	シラバスを学習の指針、年間計画、評価についての説明などで活用している。	B		○基礎学力の向上を図るため、教科と学年が連携した組織的な体制づくりに努める。 ○生徒自身によるリフレクションや自己評価も活用しながら学びに向かう自主的な態度を育成する。 ○体験的、実践的な授業を通じて、生徒のコミュニケーション能力、表現力を育成する。	B	B
	22	授業はシラバスの計画のとおり進んでいる。	B				
	23	「生徒による授業評価」の活用をし、授業改善に努めている。	B				
	24	言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力及びその他の能力を育成する授業を行っている。	B				
組織運営	25	シラバスを学習の指針、年間計画、評価についての説明などで活用している。	B		○報告・連絡・相談を徹底し、職員の間で共通理解の下、組織的な指導の充実を進める。	B	B
	26	授業はシラバスの計画のとおり進んでいる。	C				
研 修	27	「生徒による授業評価」の活用をし、授業改善に努めている。	B		○内外の研修会等に積極的に参加するなど、教員の資質能力向上に向けた研修の充実を計画的に進める。	B	B
	28	言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力及びその他の能力を育成する授業を行っている。	B				
連 携	29	いじめ防止に向けて生徒への指導をしている。	B		○学校の教育活動を学校便り・HP等を活用して、積極的に家庭・地域へ情報発信し理解を図ることで信頼される学校づくりに努める。	B	B
	30	いじめ早期発見のために生徒の様子を日常的にチェックしている。	B				
施設設備	31	いじめの問題に対して、学校全体で対応する体制が整っている。	B		○施設設備を整備するとともに有効に活用できるように工夫・改善する。	B	B
	32	地域、保護者とともにいじめの根絶に向けた対策をとっている。	B				
危機管理	33	学校は家庭や地域に「桂陽だより」、HPなどで十分な情報提供を行っている。	B		○学校健康安全計画に基づき、計画的な健康安全教育を進める。 ○自然災害にともなう、連絡体制を整備し、情報共有と連絡手段の確立を図る。 ○服務規律に関する校内研修を計画的に実施し、教育職員としてのモラルや服務保持を徹底し、不祥事防止の取組の充実を図る。	B	B
	34	家庭や地域の要望や意見を収集し、教育活動に生かしている。	B				
	35	施設設備の維持管理が適切に行われている。	B				
	36	設備や教材等の物品の整備と補充が適切に行われている。	B				